

ボジョレー速報 2019 年

ボジョレー・ヌーヴォーの収穫まであと 1 ヶ月を切った！

歴史的な猛暑も落ち着き、現在は過ごしやすい穏やかな天候が続いている。また心配された水不足も 7 月末と 8 月初めのまとまった降雨により解消されたようだ。 昨年に比べ収量予測は低いものの、クオリティに関しては昨年以上の「グレート・ヴィンテージ」に期待がもてそうだ！

カリーム、ジャン、フレッド&ケヴィンのブドウ畑の現状コンディションをレポートします♪

☆ カリーム・ヴィオネ

昨年よりも収量は少ないがグレート・ヴィンテージが期待できるかもしれない！ 6 月の終わりと 7 月の終わりに気温が 40 度を超える猛暑に見舞われ、サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールの西日の当たるブドウの垣根がブドウ焼けに遭ったが、被害はほんの一部だった。7 月 27 日にボジョレーの南一帯に雹が降ったが、幸い雹の帯はサン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールの畑の脇をかするように通り抜け、被害はほとんどなかった。また、雹と一緒に短時間に降った 30 mm の局地的な豪雨のおかげで、6 月下旬から続いていた水不足がきれいに解消され、現在ブドウは病気一つなく急ピッチで成長を遂げている。

一方ランシエのブドウは、遅霜の影響で付いている房は少ないが、それでも十分水分が足りていることもあって、どうにか平均収量を確保できそうだ。収穫日は当初予定していた通り 9 月 3 日前後を考えている。



ランシエの畑は平均的な収量予測



枝を紐で束ねられたゴブレ式のガメイ

☆ ジャン・フォワヤール

昨年に続き当たり年となりそうだ！ヴィンテージ的には夏の気候が安定した 2010 年と良く似ている。6 月終わりと 7 月終わりに 40℃を超える猛暑があり、畑も日照りにより水不足気味であったが、その後すぐにまとまった雨が降っているので、ブドウ畑に何ら影響はない。むしろこの 2 回の猛暑のおかげで、4 月の遅霜によるブドウの成長の遅れを取り戻してくれている。

当初は日中気温 40℃を超えた日は夜も熱帯夜となり、この終日熱が冷めない日が続けば、収量減はおろか品質的にも酸のない重たいワインが出来上がると心配していたが、現在は気温も穏やかで日中夜の寒暖の差もあり、天気予報によるとこの穏やかな天候は 8 月いっぱいまで続くとのことだ。このまま何も無く無事収穫までたどり着けたとしたら、2019 年は紛れもなく歴史的なミレジムとなるだろう！収穫は昨年の 9 月 15 日の予想よりも 5 日早い 9 月 10 日前後を予定している。

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

6月の終わりと7月の終わりに日陰の気温が40℃近くまで上がる記録的な猛暑に見舞われたが、マルシャン村の畑は標高があるおかげで直射日光の当たる場所でも40℃は超えなかった。この猛暑の期間は夜の気温も下がらなかったが、結果的にはこの熱帯夜がブドウの成長促進となった。

現在ブドウは病気も一切なく健全な状態を保っている。6月の初めから全く雨が降らず心配された水不足の問題も、8月初めにしっかりと雨が降ってくれたおかげで解消された。今年の収穫日は前回の予想と変わらず9月15日前後で考えている。このまま何も問題なく収穫までたどり着けたら、ニュースで言うような世紀のミレジムになるかもしれない！



マルシャン村の収穫は9月15日前後の予測



日光を取り込むために例年通り摘葉をしている

ジェットコースターのような目まぐるしい天候も落ち着き、7月後半から8月は今年のブドウにとってはまさに絶好の気象条件といえるだろう。そして「2003年を超える世紀のミレジム」がにわかに現実味を帯びてきた！次回はいよいよ収穫直前のレポートをお届けいたします！

(2019年7月15日訪問(写真) & 8月8日電話・メールレポートより)

ボジョレー・ヌーヴォー速報 2019 年

今年もボジョレー・ヌーヴォーの季節がやってくる！

2018 年は早期にブドウが熟したヌーヴォーにとっての当たり年。夏は猛暑と日照りが続いたが、結果的には品質にも収量にも恵まれたミラクルな年だった。

2019 年のボジョレーは春の遅霜など涼しい気候から始まり、夏に入ると反対に記録的な猛暑が続いている。まるでジェットコースターのような気温のうねりの中、果たして今年はどのようなミレジムになるのだろうか!?

◇ カリーム・ヴィオネ

近年ヌーヴォーの需要が増えたこともあり、今年初めにボジョレー南の村 Saint-Étienne-des-Oullières (サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエール) に樹齢平均 40 年のブドウ畑 1ha を新たに手に入れた。今年はランシエ、ランティニエ以外にこのサン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールのブドウがヌーヴォーに加わる予定だ。

今年の開花は、昨年よりも約 1 週間遅くランシエが 5 月 31 日、ランティニエが 6 月 1 日に始まり 4 日間ほどで終わった。(サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールは 5 月 26 日) 今年はランシエの畑が、標高が低く空気が停滞しやすいこともあり、5 月初めに一部霜の被害に遭った。その後すぐは気温が上がらず、ブドウの成長は前年よりも 2 週間遅れていた。6 月 7 日には瞬間風速 100m/s を超える強風が吹き荒れ、ランシエ、ランティニエの畑は一部新梢が折れる被害に遭ったが、サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールの畑は誘引していたこともあって被害はほとんどなかった。春にほとんど雨が降らなかった影響で、畑は全体的に水不足だったが、6 月 13 日、14 日、15 日と計 27 mm のまとまった雨が降り、その後連日のように猛暑が続いたことで、ブドウの成長スピードに一気に勢いが増した。病気は今のところなし。収穫日は 9 月 3 日前後を予定しているが、現在も気温は 40℃ 越えの記録的な暑さが続いていて、このまま暑い夏が続くと、2003 年のようなキャラクターのワインが出来上がるかもしれない。



病気無く、成長を続けている



ランシエの畑

◇ ジャン・フォワヤール

今年の開花は 6 月 6 日に始まった。早熟だった昨年よりも 10 日ほど遅い開花だ。ブドウの成長サイクルは、5 月 6 日に遅霜が降りたため 10 日から 2 週間ほど遅れていたが、6 月後半から続く猛暑によって今はその遅れは十分リカバーされている。6 月 7 日にハリケーン並みの強い北風が断続的に吹き荒れたが、幸い枝が勢いよく伸びる前だったので被害は最小限に抑えられた。現在 40℃ 超えの記録的な猛暑が毎日続いている。6 月 13 日から 3 日間計 40 mm 前後のまとまった雨が降ったおかげで、今のところ水不足の問題はなく、ブドウも例年並みの収量 45hl/ha が十分とれるだけの房が生っているが、このままこの異常とも言える猛暑が続けば深刻な水不足に陥る可能性もあり、まだまだ予断を許さない状況だ。ちなみに、今年の収穫は 9 月 15 日前後を考えている。

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

今年のブドウ開花は、標高が最も高いマルシャン村の畑で 6 月 15 日頃始まり 1 週間ほどで終わった。被害はほとんどなかったが、5 月初めに襲った遅霜の影響やその後の気温の涼しさもあって、開花は昨年よりも 3 週間遅かった。また冬と春はほとんど雨が降らず水不足が心配されたが、幸いにも 6 月の初めに 30 mm くらいのしっかりとまとまった雨が降り、さらに、6 月の下旬から気温が上がり連日のように快晴が続いていることにより、ブドウは一気に成長の遅れを取り戻しつつある。ブドウの病気も、今のところ天気が乾燥していることもありほとんど見られない。ただ、このところ毎日のように気温が 40 度を超える記録的な猛暑に見舞われ、これがさらに続くと雹や日照り、ブドウ焼けのリスクが出てきそうなのがちょっと心配だ。今年の収穫日は今のところ昨年と同じ 9 月 15 日前後で考えている。



標高が高く斜度のあるマルシャン村の畑



表土には花崗岩が散在しており白っぽい

地中は沖積土と砂混じり土壌

2019 年はこのまま行くと「2003 年のようなボジョレー・ヌーヴォーの世紀のミレジムになる」と巷では期待されている！その一方で、6 月に 40℃を超える暑さを記録したことで TV では連日のように地球温暖化による異常気象の話題を取り上げている。果たして、この猛暑のリスクはいつまで続くのか！？次のレポートもお楽しみに！

(2019 年 6 月 18 日訪問&6 月 30 日メールレポートより)